

2005年4月11日

徳島工場にPCDプラント竣工

生産能力10倍以上に。量産体制確立

日清紡は、4月11日、徳島工場において新プラントの竣工式を行いました。新プラントは、高機能性樹脂素材「カルボジライト」の生産設備と化学製品のパイロット設備の2棟からなります。これにより「カルボジライト」の生産能力は従来の十倍以上となり、本格的な量産体制が確立したことになります。

「カルボジライト」は、ポリカルボジイミド(PCD)の化学反応を活かした樹脂改質剤(架橋剤)で、当社では1994年頃から開発に着手し、千葉工場(旭市)に月産能力10tの生産設備を導入し、1999年から試験的に生産してきました。

「カルボジライト」は、水性樹脂の耐水性向上、ポリエステル・ポリ乳酸の加水分解防止、エポキシ樹脂の耐熱性向上、優れた化学反応性、人体や環境に対する安全性などたいへん優れた特性を持っています。

揮発性有機化合物(VOC)、環境ホルモン、シックハウスなどの原因物質の代替や植物由来樹脂の安定剤など、様々な分野でその特性が高く評価されています。

世界的な環境問題への関心の高まりを背景に、各種化学物質に対する規制強化は年々厳しくなっています。近い将来、国内市場だけでも、架橋剤は年間生産量1,000トン規模に、植物由来樹脂の安定剤は2,000トン規模に達し、さらに拡大が見込まれています。

分子中に「-N=C=N-」(カルボジイミド基)を有する日清紡が独自に開発したポリマー(高分子)のことで、一般的には、カルボジイミド化触媒の存在下ジイソシアネートの脱炭酸縮合反応によってつくられます。

【新プラントの概要】

「PCD工場」及び「パイロット研究棟」			
設置場所	徳島工場		
総工費	約17億円(研究棟を含む)		
生産能力	100トン/月(PCD工場)		
工期	2004年8月1日～2005年3月31日		
竣工	2005年4月11日		
稼動	2005年6月		
設計・監理	株式会社 四電技術コンサルタント		
施工	株式会社 北島組		
PCD工場	パイロット研究棟		
建物用途	工場	建物用途	研究所
構造	鉄骨造	構造	鉄骨造
階数	地上4階	階数	地上3階
建築面積	918.28m ²	建築面積	420.04m ²
延べ床面積	2088.44m ²	延べ床面積	991.85m ²
軒高	19.9m	軒高	14.18m

【本件に関するお問合せ先】

日清紡	機能化学品事業部 (徳島工場)	技術課	今城	TEL:088-652-9171(代表)
	本社	広報課	前川・橋本	TEL:03-5695-8854

PCD 工場



パイロット研究棟

